

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY



広報 芝浦

Autumn

2022.11

[特集1] 芝浦工業大学附属中学高等学校100周年記念事業

中高の歴史とともに歩んだ工業遺産・

SLオブジェが新豊洲にて公開



index

表紙の写真
クレーンで吊るされたSL

04 [特集1] 芝浦工業大学附属中学高等学校100周年記念事業

中高の歴史とともに歩んだ工業遺産・

SLオブジェが 新豊洲にて公開

10 [特集2]

芝浦工業大学の今

14 しばうら人 卒業生の「今」

ハンドボール部OB座談会企画

主要大会で優勝39回、準優勝22回!

ハンドボール部栄光の歴史を振り返る

塩川 安賢さん 建築工学科 1961年卒業

田口 侑義さん 工業化学科 1961年卒業

中村 宏さん 土木工学科 1962年卒業

池田 茂郎さん 電気工学科 1962年卒業

池田 鉄哉さん 電気工学科 1965年卒業

河村 登さん 土木工学科 1985年卒業

18 SITニュース

(上)建築家坂茂氏設計のレストラン、銀座シシリア豊洲店内装

©Hiroyuki Hirai

(左)シバウラキッズパーク (中)フラワーパーク (右)コスモス

豊洲キャンパスに開設した新棟(本部棟)1階に建築家 坂茂氏の設計による特徴的なデザインのカフェとレストランを2022年9月21日にオープンしました。

世界的建築家である坂茂氏の作品が建築学部・デザイン工学部を擁する豊洲キャンパスに設置することで、学生たちの学習意欲を刺激します。

レストランには再生紙の紙管(丸と四角)を主体材料として、天井、間仕切り壁、家具が作られました。これは坂茂氏がこれまで開発してきた紙の建築(紙管による建築の主体構造)の一環です。周囲のガラスシャッターを開くと内外の空間が連続し、ピロティ空間全体が人々の憩いの場となります。



新豊洲 SL



〔特集1〕芝浦工業大学附属中学高等学校100周年記念事業

中高の歴史とともに歩んだ工業遺産・

SLオブリジェが新豊洲にて公開

2022年11月12日、芝浦工業大学附属中学高等学校（以下、中高）は創立100周年記念式典を実施しました。同校は「東京鐵道中学」として開校し、黎明期には鉄道業界に多くの人材を輩出。その縁から西武鐵道が保管するSL・403号機関車の寄贈を受けました。SLは同年11月より新豊洲の校地内に展示され、貴重な工業遺産として地域の人々に公開されています。

した。 鈴見理事長より100周年プロジェクトでのSLをさがしている話をいただき、そこで西武鉄道の喜多村樹美男社長と藤井高明常務にご相談したところ、埼玉県横瀬車両基地に保管されている403号機関車（西武鉄道4号機関車）を譲渡していただけることになりました。

鈴木・西武建設さんと実機を見に行ったところ、コンパクトで豊洲の景観に合い、中高創立と同じ明治時代の製造であることがわかりました。この403号機関車を寄贈していただけることになり、とても有難く感じました。



並木 秀一さん（右）
西武建設株式会社 土木事業部
工事部 東日本工事課 次長
土木工学科 1993年卒業

加藤 智之さん（中央）
西武建設株式会社 取締役
執行役員 東京支店長
土木工学科 1982年卒業

鈴木 健一さん（左）
学校法人芝浦工業大学 新規事業
開発・中高連携室 課長



鉄道研究部の中学高校生を出迎える並木氏(左)と加藤氏(右)

——譲渡が決まってから設置まで、どのような苦労がありましたか。

鈴木・車両の修復では藤田教授の監修のもと、できる限り明治の姿を再現しよう努めました。当時の汽笛を再現しようと愛知県明治村にある汽笛の音を集音。1日2回汽笛を鳴らす予定です。他に煙が出る工夫も考えています。

並木・前照灯は現存しないため、他の展示車両を参考に極力当時のものに近く復元して、光る様にしました。

鈴木・運転台は当時のままですよね。こちら

**明治期の姿を忠実に再現
高輪築堤の石も再利用へ**



修繕前のSL

100周年にふさわしいSLのオブジェを！

——今秋、新豊洲に登場したSLは1886年に英国で製造され、明治から昭和にかけて日本列島を走り続けた貴重な工業遺産だとお聞きしています。まずはプロジェクト発足の経緯からお聞かせください。

鈴木・2021年9月、中高創立100周年記念事業の一環として、何かオブジェをということで本企画をスタートさせまし

んになる方には明治期の機関車を感じていただけると思います。

並木・136年前に製造され、約60年前に現役生活を終えて、その後長く保管されていたSLですので、もちろんサビ取りや再塗装の必要があります。協力会社についても専門会社の協力を得て、整備に携わりました。

加藤・夏休みには中高の生徒さん14人が横瀬車両基地まで来られて、車体の一部のペンキ塗りをしてくれましたね。修復を経て136年ぶりにピカピカになったSLを今後もきれいに保っていただくために、生徒さんたちには簡単な修復や車体の掃除も担当してもらっています。



高輪築堤の石を利用した台座

た。中高はもともと旧国鉄で働く職員やその子弟に教育の機会を提供する「東京鐵道中学」が前身ですので鉄道とのつながりが感じられるもの、50年後100年後も走り続ける姿が感じられるものとして、SLが候補に挙がりました。早速日本全国で譲渡いただけそうなSLを探したのですが、状態がよくなかったり、大き過ぎたり。しかし翌10月、本学電気工学科の藤田吾郎教授より「西武鉄道さんがSLを保管されている」という情報が入ったため、本学とゆかりの深い西武建設さんへご連絡しました。

加藤・当社は以前より芝浦工大の伊代田研究室、長谷川研究室と共同研究を続けています。私自身が芝浦工大の卒業生ですし、母校のお役に立ちたいという想いもありま





附属中高 鉄道研究部による SL 塗装体験



8月9日、SL修復作業を行っている西武鉄道横瀬車両基地で芝浦工業大学附属中学高等学校鉄道研究部14人が塗装作業を体験しました。気温38℃の猛暑日の中、現場で修復作業に従事する専門スタッフから指導をうけ、連結器、配管部、胴パイプ部の塗装を体験しました。駅ホーム位置の変更工事体験談や汽笛音を試してみるなど、鉄道好きが楽しいプログラムを盛り込んだイベントとなりました。

参加者コメント

平山 史菜さん 中学2年生

もともと工作が好きで、1/150スケールのNゲージ鉄道模型を制作している鉄道研究部に入部しました。普段は紙やプラスチックにスプレーなどをかけて作業していますが、今回は1/1スケールにペンキを刷毛で塗ることができました。普段とのスケール感の違いに本物の大きさを実感しました。

黄田 将志さん 高校1年生

イベント参加にあたり、家にある文献から機関車について調べてみると、モノクロの写真ばかりでした。それだけで、いかに貴重なモノで貴重な機会なのかがわかります。当時の色を再現することで、モノクロではなく実物として目の前に存在するのだと強く実感できました。



芝浦工業大学附属
中学高等学校
佐藤元哉 校長

この度、本校100周年の記念事業のひとつとして西武鉄道様から403号機関車をご寄贈いただき本校敷地内に設置の運びとなりました。記念すべき年に、この「機関車到着」は東京鉄道中学を前身とする本校にとりましては望外の「出来事」であり、何よりの「記念碑」となりました。また同時に豊洲の地にとりましてもそのランドマークとして広く地域住民の皆様にも親しまれることと思います。今後は次代を走り抜く附属中高の新たなシンボルとして大切に未長く保管させていただきます。

次代を走り抜く
新たなシンボル

社長と藤井常務に改めて感謝の気持ちをお伝えしたいです。
鈴木・中高創立100周年は二度とない大切なイベント。企画から設置に至るまでプロジェクトがスムーズに進んだのは、人と人のつながりのおかげだと思います。西武建設さん、西武鉄道さん、明治村さん、江東区、港区、東京都、そして業務を超えて協力してくださった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。今後はSL展示だけでなく、芝浦工業大学豊洲校舎におけるダットサン展示、豊洲フラワーガーデンも含めて、豊洲の観光資源として地域に貢献していきたいと考えています。
(取材日：2022年9月15日)



新豊洲に設置するためクレーンで吊るされたSL

並木…実は今回の施工でいちばん苦労したのは、車両を設置する基礎の石積みです。1872年に日本初の鉄道が敷設された際、海上を走るために高輪築堤が築かれ、その遺構が2019年に発掘されました。縁あってその築堤の石をいただけることになり、SLの台座として再利用することになったので、歴史的重みをどこまで表現できるか、協力会社とかなり検討を行って施

豊洲の観光資源として 地域社会に貢献を

工しました。
加藤…1個あたり80〜100kgある石を積める職人は今やほとんど存在しません。当時の施工技術に感嘆しつつ、技術を継承する石工を探し、施工をお願いしました。
並木…SLと石積という題材のコンセプトをいかにマッチしているか、気を配りながらの施工を行っています。

— 関係者の方々の努力と工夫もあって、11月12日にSLの除幕式が行われます。

並木…芝浦工大を卒業して29年、まさか母校関係の工事に携われるとは夢にも思っていませんでした。今はこの機会を与えていただいたことを非常に有難く思っているとともに、責任を痛感しております。403号機関車が末永くモニュメントとして活躍することを祈っています。
加藤…鉄道関連の仕事が多い当社でも、SLオブジェの工事は初めての経験でした。プロジェクトを完遂できたのは、多くの業者さんが積極的に動いてくださった結果だと思えます。私自身は「このSLをなんとか芝浦工大に譲っていただきたい」という点に注力したので、西武鉄道の喜多村

西武鉄道4号機関車として現役の頃の403号機関車



芝浦ビジネスモデルコンペティション(SBMC)の最終審査会で 中学生チームが最優秀賞を受賞



9月25日に第7回芝浦ビジネスモデルコンペティション(以下、SBMC)の最終審査会が豊洲キャンパス本部棟で開催されました。SBMCは本学が主催する、学生による新たなビジネスモデルの考案と実行を支援する企画です。本コンペティションを通して、参加者は起業家精神(アントレプレナーシップ)を養い、また近い将来、イノベーションリーダーとして、起業や新規事業の創出に主体的に関わることを期待されています。

7回目となる今回の募集テーマは「技術とアイデアで社会課題を解決しよう!」。予測不能と言われる現代社会における、学生らしいフレッシュな感性と将来への思いの

中学生チームが最優秀賞 (賞金30万円)を受賞

最優秀賞には、電圧を加えることで一方の面が冷却され、反対面が発熱する熱電素子を利用した温冷カイロをレンタルするビジネスモデルを提案した、芝浦工業大学附属中学校2年生によるチームであるCrashers(タイトル:「貸出熱量」熱れー)が選出されました。ひとつの温冷カイロで夏場には涼をとることができ、冬場には暖をとることが可能になります。



最優秀賞:Crashers



表彰コメントの様子

こもったビジネスプランを学内外から広く募りました。最終審査会には、応募総数43チーム(ビジネスモデル部門26チーム、アイデア部門17チーム)の中から、書類選考を通過した8チームが出場しました。

審査会では、大学院生や学部生、そして中高生の各チームが、15分の持ち時間の中で力強くプレゼンテーションを行いました。各々の事業企画を審査員に理解してもらい、事業パートナーと認めてもらうために、事業のCM制作や商品のモックを準備するチームも見られました。審査員からも厳しい質問や賞賛のコメントが飛び交い、会場は大いに盛り上がりました。



3年ぶりとなる対面型オープンキャンパスを 豊洲キャンパス、大宮キャンパスで開催



受験生に芝浦工大の魅力伝えるオープンキャンパスが、大宮キャンパスでは7月30日・31日、豊洲キャンパスでは8月20日・21日に開催されました。新型コロナウイルスの影響で2019年、2020年はオンラインでの開催となったため、対面型のオープンキャンパスは約3年ぶりとなりました。予約制での開催となりましたが、各日

程の予約は満員となり、4日間合計で約8,000人にお越しいただきました。

大宮キャンパスでは、気温35°Cを超える夏本番の暑さとなった中、各学科の学生たちを中心に、それぞれの研究内容、活動内容が紹介され、趣向を凝らしたブース展示で受験生にアピールしました。展示の紹介や実験装置のデモンストレーションに参加した受験生や保護者は真剣な表情で見入り、学生へ熱心に質問していました。また女子学生への相談ブースも設けられ、芝浦工大を目指す女子生徒にとっても、理工系大学が身近に感じられる企画も催されました。

豊洲キャンパスにおいても研究内容や活動内容の紹介が行われ、さらに、工学部課程制特設ブースやHADO(AR技術を応用した3×3のドッジボールのようなスポーツ)体験ブースが盛況となりました。4日間で多くの来場者に立ち寄りいただきました。



特集2 芝浦工業大学の今

SHIBaura INSTITUTE OF TECHNOLOGY TODAY

芝浦工業大学では、理工系人材の育成に向けて、産業界や高等学校との連携を深めています。その他にも、理工系女性技術者の育成に向け女子高校生向けのインターンシップも行いました。本学の連携に関する取り組みを特集します。

芝浦工業大学と佐藤栄学園が 高大連携協定を締結



左から佐藤栄学園 大久保信行常務理事、田中淳子理事長、芝浦工業大学 鈴見健夫理事長、山田純学長

9月20日、学校法人芝浦工業大学は、埼玉県内に初等教育から高等教育まで展開している学校法人佐藤栄学園と高大連携事業に関する協定を締結しました。協定締結式は、豊洲キャンパス完成お披露目会が開催された9月20日に合わせて行われました。この協定により、両法人の交流・連携を通

協定締結のポイント

- ✓ 進学・キャリア教育に関する連携を構築
- ✓ 佐藤栄学園が設置する高校から本学への進学に関する円滑な接続
- ✓ 生徒に対するカリキュラム・教材開発の連携



関係者全員集合写真



協定締結式の様子

じ、佐藤栄学園が設置する4つの高等学校（埼玉栄高等学校、栄東高等学校、栄北高等学校、花咲徳栄高等学校）の生徒の学びと進学意欲向上および理工学教育推進に必要なとなるさまざまな高大連携事業の実施を目指します。今後には理工系への進学を希望する佐藤栄学園の生徒への講座の実施など、高大連携教育を行うとともに、独自の推薦制度の新設を目指します。また、本学の大宮キャンパスの図書館利用など、施設の利用も可能になる予定です。

学校法人佐藤栄学園とは

埼玉県で小学校、中学校、高等学校、大学、専修学校を9校擁する学園。

佐藤栄学園設置学校

- 大学** 平成国際大学(埼玉県加須市)
- 専修学校** 埼玉自動車大学校(埼玉県北足立郡伊奈町)
- 高等学校** 埼玉栄高等学校(埼玉県さいたま市西区)
栄東高等学校(埼玉県さいたま市見沼区)
栄北高等学校(埼玉県北足立郡伊奈町)
花咲徳栄高等学校(埼玉県加須市)
- 中学校** 埼玉栄中学校(埼玉県さいたま市西区)
栄東中学校(埼玉県さいたま市見沼区)
- 小学校** さとえ学園小学校(埼玉県さいたま市北区)

女子校高大連携 サマー・インターンシップ初開催



集合写真

芝浦工業大学は、「未来を担う理工系女性技術者の育成」の一環として、女子高校生対象サマー・インターンシップを7月28日から8月5日にかけて開催しました。日本における工学系学科の女子学生比率は15.6%（文部科学省学校基本調査令和2年度）と、世界と比較しても低水準です。「教育も研究も、ダイバーシティの中でこ



TA(ティーチングアシスタント)と実験に取り組む姿



研究に対する積極的な姿勢が見受けられました



最終日は山田学長より終了証が贈られました

そイノベーションが生まれる」という考えのもと、学部女子学生比率を18.7%から、2027年の設立100周年には30%以上へ引き上げることが目標として、さまざまな取り組みを行うこととしています。本プログラムでは、山脇学園高校および昭和女子大学附属昭和高校より計29人の生徒が、4系統(機械・ロボット、情報・プログラム、材料・化学、建設・環境)から成る15の研究室に配属され、インターンシップに取り組みました。担当教員や大学生、大学院生と一緒に「系統別発表会」に向けて、各々が各研究室で与えられたテーマに沿って、実際に研究活動を行い、参加者からは「研究室に自分専用の

デスクを用意してくれていて、研究室のメンバーとして扱ってもらえて嬉しかった」「疑問点や意見を積極的に出し合っていて、課題を達成する力がついた」「研究は大変だと感じることもあるけど、同時に楽しいこともあり、まずは楽しんだ方が良い、という事が今回のプログラムで分かった」といった声が聞かれました。最終日は豊洲キャンパスで、山田学長より終了証の授与式が行われました。参加生徒一人ひとりが感想を述べましたが、教員への感謝の言葉や理工系への関心が深まったことを伝える生徒も多く、心温まる場となりました。

しげうら 卒業生の「今」

創立以来10万人を超える芝浦工業大学の卒業生。
現在も日本はもとより世界各地で活躍しています。
エンジニアはもちろん、さまざまな方面で活躍する卒業生を紹介します。

ハンドボール部 OB 座談会企画

主要大会で優勝39回、準優勝22回！ ハンドボール部栄光の歴史を振り返る

芝浦工業大学ハンドボール部は1959年に全日本学生選手権大会、全日本総合選手権大会、全日本学生王座決定戦、全日本室内総合選手権大会の4大タイトルを獲得。日本代表選手も輩出し、その名を全国に轟かせました。今回は全盛期を支えた卒業生が当時は振り返り、思い出を語り合います。



塩川 安賢さん 建築工学科 1961年卒業
田口 侑義さん 工業化学科 1961年卒業
中村 宏さん 土木工学科 1962年卒業
池田 茂郎さん 電気工学科 1962年卒業
池田 鉄哉さん 電気工学科 1965年卒業
河村 登さん 土木工学科 1985年卒業

● 社会人チームにも勝利し、4大タイトルを独占！

——芝浦工業大学ハンドボール部は長い歴史と輝かしい戦歴を持つ運動部とお聞きしています。まずは創部のきっかけから教えてくださいませんか？

田口…ハンドボール部は1950年春、当時東大文部教官だった高嶋潤先生が芝浦工大の体育教室の非常勤講師になられたことを機に、建築学科教授だった三浦元秀先生に部長をお願いして創設されました。創部3年目ぐらいから全国の有力高校より新入部員を迎えるようになり、急速に強くなっていきました。我々世代の部員は全員が競技経験者で、全国の強豪校から芝浦工大に集まったメンバーです。

塩川…僕は高校3年の冬に芝浦工大が全日本室内総合選手権で優勝したのを見て、「ハンドボールをやるなら日本一のところへ行きたい！」と思って入学しました。ハンドボールが11人制から7人制が変わって、すぐの大会でした。

——ハンドボールといえば7人制のイメージですが、11人制の時代もあつたんですね。

中村…ハンドボールはもともとヨー

ロッパが起源のスポーツで、7人制は北欧、11人制はドイツで誕生したといわれています。11人制はサッカー場と同じ広さのコートで屋外、7人制は今と同じ屋内のコートで競技しました。

田口…北欧は寒さが厳しいから屋外では難しいんだよね。ちょうど我々の頃に世界的にも7人制へ移行していきなりました。

塩川…そして僕たちが在籍していた1959年に、芝浦工大は全日本室内総合選手権だけでなく、全日本学生選手権、全日本学生王座決定戦、全日本総合選手権の4大会のタイトルを独占したんです。

中村…あのときはいっぱいお祝いしてもらったね。

● 厳しくも実り多い合宿所生活。やり抜いたからこそ今がある

——大学チームはもちろん、社会人チームにも勝利しての日本一ですね。なぜ、そこまで芝浦工大は強かったのでしょうか？

塩川…なんといつても合宿所で寝食をともにして、厳しい練習を積んだことが大きかったね。



(左から) 池田(鉄)さん、中村さん、田口さん、鈴木理事長、塩川さん、池田(茂)さん、河村さん

田口…当時は駒沢公園に合宿所がありました。6畳間に学生4人が共同生活ですよ(笑)。1年生は押入で寝ていました(笑)。

中村…1年生は交代で炊事当番もします。朝起きて、まず先輩の布団を上げて、部屋を掃除してから洗濯。それから授業や練習ですよ。

田口…合宿所の朝食がよかったね(笑)。白いごはんは味噌汁、納豆、タワアン。納豆には必ず卵の黄身と鰹節とネギがついた(笑)。

塩川…植物性たんぱく質が摂れるから本当に身体によかった(笑)。

池田(鉄)…近くにライバル校の合宿所があったんですが、そこは味噌汁とタワアンだけだったらしいですよ(笑)。「卵の黄身がなくなると羨ましい」と言われた記憶があります(笑)。

塩川…当時60人の部員がいたんですが、まだ電気炊飯器がない時代なので1年生が薪の釜でごはんを炊いていました。おかげでサンマのときは60本のサンマを焼くわけです(笑)。

中村…食材の買い出しも1年生が学生服で行っていました(笑)。合宿所生活は大変でしたが、やり遂げたから今があるのだと思います。

● 過酷な長野合宿が黄金時代の布石に

——合宿所生活のエピソードは今の学生さんには想像もつかないことばかりですね！他に芝浦工大が強くなった要因はありますか？

田口…毎年長野県の浅間温泉で行っていた春・夏の合宿でしょう。この合宿での特訓がハンドボール部黄金

6:20	起床
6:30-7:00	朝食
7:30	朝食
9:30-11:30	練習
12:00	昼食
12:30-2:00	練習
2:00-5:00	練習
7:15	夕食
8:00-9:00	学消
9:30	消灯

上：1959年度春季合宿日程
左：合宿心得

合宿心得
「われわれは東海大学付属運動部合宿所を、安んずる。」「すべからず、合宿生活の目的を、自覚に基き、一合宿練習は技術の錬磨のみならず精神の鍛錬と社会的訓練と目的とする。」「入浴は午後の練習後のみ許可する。芝浦工業大学ハンドボール部」

時代の布石になったと思います。10日間の日程のうち、最初の3日間はボールを持たない基礎練習で、うさぎ跳びや匍匐前進など軍事教練に近かったですね。練習中に水分を摂ることがタブーとされていた時代なので、雨が降るとみんな上を向いて口を開けていました(笑)。恐怖の浅間温泉合宿(笑)。毎年脱走者が出ました(笑)。



1959年度春季合宿集合写真



1964年日仏国際親善試合 フランス・ステラ対芝浦工業大学戦

たから迎えに行つてくれ」と連絡が入りました。探してみると確かに山口に帰っていて、彼を東京まで送っていったことを覚えています。

●世界選手権や国際親善試合で欧州強豪チームに勝利

―試合での思い出もお聞かせいただけますか？

塩川…いちばん印象に残っているのは、1960年に秋田県で開催された全日本総合選手権かな。台風で4日間雨が降りっぱなしで、屋外コートが田んぼみたいになった(笑)。当時の写真を見たら、全員泥だらけですよ。先輩のシューズが脱げて泥の中を探し回ったんだけど、なかなか見つからなかった(笑)。

田口…それでも決勝では大崎電気に勝利して優勝したね。

池田(鉄)…芝浦工大が海外チームを日本に招いて、国際親善試合も4回やりました。1回目が世界選手権準優勝チームのルーマニア代表。16対17で惜敗しましたが、「日本にこんな

チームがある」と世界に知らしめました。当時はNHKで全国放送されたんですよ。

2回目はフランスのステラというチーム。3回目はドイツ代表。どちらも勝利しました。4回目は中国代表で、日本代表が負けたチームでしたが、芝浦工大は勝ったんです。本当に強かったですね。

田口…海外チームは2m近い身長がある選手も珍しくなかったね。身体の大きさ・厚み・重さ・高さが全然違いました。

池田(鉄)…それでも勝利できたのは、日本人選手にスピードと機敏性があったからでしょうね。

田口…テクニクとスピードは遜色なかったね。

池田(鉄)…ステラとの試合会場は東京体育館だったんですが、1万人入る会場が満員になった。新聞にも大きく取り上げられたし、すごい人気でした。

田口…世界選手権にも2回出場させてもらいました。1961年は西ドイツ(当時)、1964年はチェコスロバキア(当時)で開催されて、チエコでの第1戦では前回大会7位のノルウェーと対戦し、18対14で勝利を収めました。日本代表が世界選手権で初めて手にした勝利です。今に至



1960年8月全日本総合ハンドボール選手権大会にて公式大会46連勝

池田(鉄)…ハンドボールには「走る」「跳ぶ」「投げる」の3要素が全て揃っています。目的に向かってこの3要素をいかに使いこなすかがポイントで、達成できたときの喜びは格別です。

田口…キーパーと1対1になり、シュートを打つ瞬間がダイナミックなんです。キーパーとのかけひきで、ボールを浮かしたり、股下を狙ったり、顔面の横を通したり。決まった瞬間はたまらないですね。ハンドボールの醍醐味だと思います。

池田(鉄)…それになんといつても優勝の喜びが大きいよね。私は選手・監督として何十回も全日本選手権に出場していますが、優勝の喜びを分かち合う瞬間が最高です。

河村…優勝は2部リーグでも3部リーグでもうれしいものです。ハンドボールは相手選手とのコンタクトプレーもあるし、シュートは本当に快感です。やってみると楽しさがわかるスポーツなので、多くの方に知っていただきたいです。

●あの経験があれば、どんな困難も乗り越えられる

―最後に、ハンドボール部で学んだことで、社会に出られてから役立つ

ことはありますか？

中村…たくさんありますよ。私は卒業後、企業に就職しましたが、社内の人間関係を乗り切っていくのにハンドボール部での経験がとても役に立ちました。卒業から10年後に独立し、総合建築業の会社を立ち上げたのですが、会社経営はさまざまな困難を伴います。しかし、「こんな苦労、大学時代の合宿に比べたらたいしたことない」と思えました(笑)。あれだけの努力と忍耐をしてきたんだから、どんなことにも耐え切れる。会社経営なんて、金がなければ銀行行って借りてくればいいんですよ(笑)。でも合宿は得たなしです(笑)。

その場で解決しなくてはならないことばかりで、本当に鍛えられました。**塩川**…私は卒業後もずっとハンドボールに関わり、社会人チームや学生チームの監督を歴任してきました。そこで人を指導し、その成長を見る喜びを実感したんです。人の指導とは、その人のいい面を引き出すこと。選手一人ひとりの身体能力や技術力などを観察し、伸びしろを見つけて指導すると、思ったとおりに伸びてくれる。自分のことだけ考えていた選手

時代より喜びが大きかったですね。**河村**…私は建築関係の仕事をしているんですが、塩川監督には仕事の案

件も紹介していただきました(笑)。

田口…なんといっても工業大学ですからね。実習があるから、私たちも普段は授業に出席し、その後に駒沢グラウンドで練習していました。とにかく忙しいから時間をムダにできない。限られた時間の使い方は社会に出てからも役に立ったんじゃないかな。

中村…私は少し前に難病になり、3か月間入院して、ほとんど車いすの生活を送っていました。病院のリハビリも受けましたが、少し痛みがあるとそこでストップです。「これでは治らない」と考え、自分なりに工夫してリハビリし、今では2日に1回ゴルフができるまでに回復し、主治医も驚くほど。この精神力も学生時代の部活動で培ったものです。

池田(鉄)…現在、私は芝浦工大の女子ハンドボール部の監督を務めています。部活動は人間形成の場です。合宿所の心得に、「ハンドボール部の活動は技術の錬磨のみならず、精神と社会的訓練を目的とする」「全ての言動は全日本の覇者たる自覚に基づけ」というものがあります。

全員…ありましたね。**池田(鉄)**…私たちの一挙手一投足にこの言葉が染み付いている。これこそが大学スポーツの成果だと思います。

●一度経験すると楽しさがわかるスポーツ

―ここで改めてハンドボールという競技の楽しさ、面白さを教えていただけますか？

がなかったんですけど。

河村…私は先輩方より20年近く後の時代で塩川さんが監督をされていたチームに在籍していました。当時は2部リーグでした。強かった時代のお話を先輩方からお聞きする機会が多く、とても印象に残っています。

芝浦工業大学

2022年度秋期学位記授与式および入学式を挙
 ぐ将来を担う学生の新たな門出を祝う

9月22日に、豊洲キャンパスの大講義室にて2022年度学部・大学院学位記授与式（9月卒業・修了生）および大学院入学式（10月入学生）が挙行されました。学



位記授与式では博士課程11人、修士課程20人、学士課程18人の学位記授与に加え、学長賞（グローバル）の授与が行われました。続いて行われた入学式では、博士課程入学者13人、修士課程入学者20人、今秋から入学する中国、タイ、インドネシア、モンゴルなどアジアを中心とした留学生を含む大学院生が出席し、盛大に式が執り行われました。山田純学長は「人間万事塞翁が馬」ということわざを引用し、人生における不幸は予測しがたいものであり、卒業後の人生も浮き沈みに、過度に悲しむ、喜ばずに前を向いて進んでいってほしいとメッセージを贈りました。また、鈴見健夫理事長からは式辞において、「常に謙虚な心と感謝の気持ちを持ち、『ありがとう』と言葉を贈ります」と言葉を贈りました。

ポストモダンの巨匠 リカルド・ボフィル氏の追悼回顧展を開催

9月21日から1か月間、豊洲キャンパスの有元史郎記念校友会館交流プラザにおいて「リカルド・ボフィル追悼回顧展」が開催されました。ボフィル氏は、ポストモダンを代表するスペイン生まれの建築家です。世界中で1,000件以上のプロジェクトを手掛けており、日本では「東京銀座資生堂ビ

ル」（東京・中央区）や「ラゾーナ川崎プラザ」（川崎市）などの設計に関わったことで知られています。回顧展は、学生だけでなく、地域の方々も見学できる形で開催され、ボフィル氏の建築に対する思いや、手掛けた作品が展示されました。



駅伝部が箱根駅伝予選会で過去最高の20位を記録

10月15日に行われた第99回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）予選会で、芝浦工業大学駅伝部が20位（43チーム出場）になりました。

陸上自衛隊立川駐屯地をスタートし、立川市街地から国営昭和記念公園を走るレースを、10時間59分27秒（上位10人）でゴールしました。

昨年の第98回大会で記録した25



©月刊陸上競技



©月刊陸上競技



芝浦工業大学

豊洲キャンパス完成お披露目会を開催

9月20日、芝浦工業大学豊洲キャンパス完成を記念したお披露目会が開催されました。



目会が挙行されました。地域や学校関係の来賓などを含め、大勢の方々にお越しいただきました。豊洲キャンパス大講義室でテークアウトを行いました。鈴木健夫理事長、山田純学長から地域および関係者への感謝と芝浦工業大学の研究力強化と発展を誓う挨拶が述べられた後、山崎孝明江東区長からは「本部棟の発展と、これからの大学の発展をお祈りします」との祝辞がありました。場所を本部棟1階ピロティに移し、「ダットサン16型セダン(1937年)」除幕式が開催されました。寄贈いただいた機械工学科卒業生佐々木徳治郎さんから祝辞をいただき、自動車部の主将と和やかに記念撮影を行いました。その後、学生による本部棟見学ツアー、語学研修参加者による成果発表会、ARスポーツ「HADO」実演などのイベントプログラムも行われました。



ひろゆき氏×芝浦工大生との特別イベント 「ひろゆきに何でも聞いてみよう」とひろゆきを論破せよ」の動画を公開



SIT DIALOGUEとは
学長や本学の教員・学生が、各界の専門家とさまざまなテーマについて意見を交わし、対話を通じて本学の目指す姿を考えるシリーズ企画です。今後も様々な企画を検討中なので、ご期待ください!



SIT DIALOGUE シリーズ第5弾! ひろゆきが語る、後悔の無い学生生活の過ごし方とは?

昨年12月、山田学長と対談した実業家のひろゆきさんが、今回は芝浦工大生とのイベント企画に登場しました。本イベントは「ひろゆきに何でも聞いてみよう」とひろゆきを論破せよ」と題し、昨年度から続く本学の対談・座談会シリーズ「SIT DIALOGUE」の一環として開催。会場となる豊洲キャンパスの大講義室には約100人の学生が参加しました。

前半の質問コーナーでは、在学生が勉強・進路、友達・人間関係、恋愛・結婚といったさまざまなテーマで悩みを語り、ひろゆき氏から「より良い学生生活を過ごすために何をすべきか」のアドバイスをもらいました。

後半はチャレンジ企画としてディベートを行い、在学生が事前に用意したテーマから賛成派と反対派に分かれ、白熱した討論が行われました。

参加した学生からは「大学生活の悩みが解消できた」「新たな気づきがあった」「就職活動に活かせる知見が多かった」などのコメントが寄せられました。

イベントの様子は芝浦工業大学 YouTubeチャンネルで公開中。是非ご覧ください。



YouTube

イベントの書き起こしウェブページはこちら!



Web

芝浦工大附属中学高等学校

鉄道研究部が全国高等学校鉄道模型コンテスト2022の
HO車両部門で最優秀賞を受賞

8月19日から21日にかけて東京都で開催された全国高等学校鉄道模型コンテスト2022に、鉄道研究部の和田理弘さん(高校2年生)、池田新さん(高校1年生)、西山誠梧さん(中学2年生)が出場し、HO車両部門で最優秀賞を受賞しました。指導教員は増田暁教諭と小川賢一郎教諭です。

和田さんたちは鉄道150周年を記念して、歴史に残る名列車・国鉄80系電車を制作しました。車両は10両制作し、3Dプリンターやレーザーカッターなどは使わず、すべて手作業で紙から車体を完成させました。また、車体側面を3重構造にすることで、車体の外壁、窓、扉を別々の奥行きで表現させる工夫を施しました。

生徒たちは「合計236個にもおよぶ10両分の椅子や、800以上の窓枠を切り出しました。どれも手作業で、骨の折れる作業でした」と振

り返ります。

和田さんは「中学3年生から3年連続で出場し、これまで2回はいずれも最優秀賞を逃し、悔しい思いをしてきました。そのため今年は一段と工夫を凝らしました。念願の最優秀賞を受賞でき、感無量でした。これまで培ってきた技術を後輩たちに伝承し、後輩たちが活躍できるように、応援していきたいと思います」と感想を述べました。

高等学校鉄道模型コンテスト
<https://www.noraco.jp/>



敬愛の像(別名:日月の碑)を修復

附属中学高等学校の校訓の中で、最も重要な「敬愛」を象徴するシンボルである「敬愛の像」。その修復作業が、9月27日から28日にかけて行われました。この像は1961年4月から約2ヶ月かけて、当時の教員の指導のもと生徒たちが共同して創作し、完成させたものです。太陽(表面)と月(裏面)を、教師と生徒が捧げ持っている姿を現しています。

製作から60年が経過し、経年劣化が進んでいたことより、製作に関わったメンバーのうち3人(森浄様、菊池衛様、扇谷子力様)のご協力により、製作当時の様子を忠実に再現した修復作業を行いました。

現地での打ち合わせでは製作当時の思い出話や、像に刻まれた製作メンバーのサインなどの製作秘話に花が咲きました。ま



た、修復作業は六本木ミッドタウンの屋外大型モニユメントなどを手掛けた(株)ビーファクトリーが行い、像は60年前の姿に戻りました。

芝浦工大柏中学高等学校

日本高校生パラメンタリーデイベート連盟
全国大会に出場

3月26日、第11回日本高校生パラメンタリーデイベート連盟杯(全国大会)に、芝浦工業大学柏高等学校の生徒3人が初出場しました。

パラメンタリーデイベートとは、ひとつの論題に対して肯定チームと否定チームに分かれ、各々



表彰状とチームの集合写真

のチームが自分たちの立場の主張を述べ、第三者であるジャッジを説得する形のデイベートです。論題が発表されてから、30分程度の短い準備時間の後、英語を使って即興デイベートを行います。デイベートをする者は、肯定か否定チームのいずれに属するかを自ら選ぶことはできず、自身の意見とは異なる観点からの主張も考えなければなりません。世界的には教育現場で広く導入されており、グローバル社会での活躍に必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、グローバル課題に対する知識量、パブリック・スピーチ力など、多くの力が問われます。

出場した3人は中学時代に英語の授業でデイベートの楽しさを知り、約1年半をかけて準備を行いました。多様な練習相手を確認するため、対外試合に積極的に参加するなど努力を重ねました。

1月に行われた千葉県大会で総合第2位となり、全国大会出場権を獲得。出場が決まった時は、「千葉県大会は実力を確かめるために出場し、全国大会出場権を獲得できると思っていたいなかったので非常に嬉しかった」と相村賢澄さん(高校2年生)は振り返ります。

全国大会で与えられた論題は「国会で採択された軍部の動員政策に対して、大将を含めた軍部が拒否権を得るべきかどうか」。芝浦工業大学柏高等学校のチームは「拒否権を得るべき」とする、肯

定派に指定されました。準備時間の30分でホワイトボードに論点などを書き出し、持論の内容に不備がないかを確認。結果は全国44チーム中、27位となりました。

北川博雅さん(高校2年生)は、「今回出場したことで、実力者たちと戦える自分への自信を養うことができ、学校外の世界へ目を向ける良い機会になった。他人と協力して大きな成果を上げたこの経験は、人生において必ず役に立つと感じている」と話します。布施慶多さん(高校2年生)は、「デイベートは論理性も大事だが、それよりも相手の胸を打つ話し方が非常に重要。将来は学者になりたいと思っているが、どんなに立派な研究でも話を聞いてもらえなければ意味がない。デイベートで培った、『相手の感情に訴える技術』が最大の収穫」と語ります。

チームを担当した佐藤栄一教諭(英語科)は、「彼らが中学生の時から英語を教えてきた。これからも語学力や人間力を鍛え続け、本当の意味でグローバルな人材に育ってほしい。目に入れても痛くない、自慢の生徒です」と顔をほころばせました。

10月には第14回千葉県高校生英語デイベート大会にも出場するなど、3人以外のチームメンバーも含め、日々鍛錬を続けています。芝浦工業大学柏中高等学校は、これからも世界水準の教育で生徒の学びを応援していきます。



芝浦工業大學

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Established 1927

Tokyo